

30	兵学程式		
	A J -35	慶応3(1867)	
	オランダ陸軍の用兵操典の翻訳書。陸軍所から発行された。		

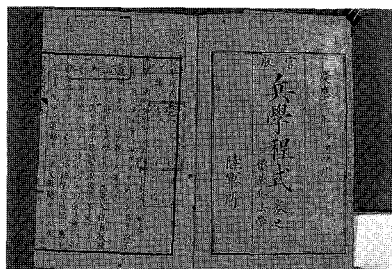
- ◆ 3巻、4冊から成る。『砲兵程式』と同様に、陸軍所から発行された。序・跋等に本書の成立事情がわかる記載がなく、原書名、訳者等を確認することはできない。「根基兵法学」の副題どおり、用兵の基礎を訓練する士官用教科書である。内容は歩・砲・騎三兵の編成、運動、地形に応ずる戦闘法、その他にわたる。「諸言」には、政府が兵学を教導するためにフランスの戦記を収録した、とある。
- ◆ 当館所蔵本には、「箱館御役所」「駿府学校」「静岡師範学校」及び『砲兵程式』と同様に「攬英武揚之印」の印記がある。

31	百幾撒私 (ぺきさんす)		
	A J -28	安政2(1855)	Paixhans原著 小山杉溪訳
	フランス海軍が行ったカノン砲発射実験の報告書。		

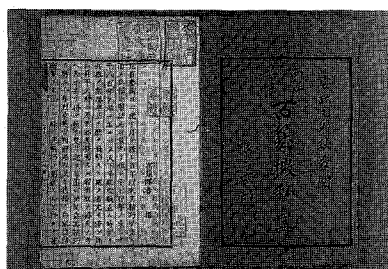
- ◆ 嘉永7年(1854)に3冊本として成稿。その後、安政2年(1855)に刊本(4巻、4冊)が200部の限定版として刊行された。表紙見返しには「西洋兵書 百幾撒私」とある。
原書は、ペキサンス(H.I.Paixhans) 著 “Proef Nemingen Gedaon Door de Franshe Marine Omtrent de Bombe-kanons” (1835)である。
- ◆ 当館所蔵本は、安政2年刊の限定版である。「諸術調所」「駿府学校」「静岡師範学校」の印記をもつ。
* マイクロフィルムあり。

32	新銃射放論		
	A J -30	安政4(1857)	Booms原著 赤松清次郎訳
	当時、ヨーロッパ諸国で採用された新式銃の解説書。		

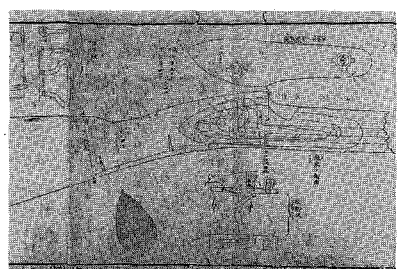
- ◆ 全1冊。原書はボラムス (P.G.Booms) 著 “Verhandeling over het Schot der Draagbare Vuurwapens” (1855)である。本書はその抄訳で、第一・二篇を省略し、第三篇の散兵銃及び弾丸について述べたものである。
各種の銃の性能の比較が、実射の結果等によって詳細に記載されている。巻末には、銃の精密な図が多数添えられている。
- ◆ 当館所蔵本は、「諸術調所」「駿府学校」「静岡師範学校」の印記をもつ。



30 兵学程式



31 百幾撒私



32 新銃射放論